

むいあんによもく 無為庵如黙の遺品

塚原壇・塚原館跡



慶徳町 高畑五一郎氏所蔵

如黙は、九州肥前国（現佐賀・長崎県）の人。十七歳の時、父母に死別して京都に出て勉学し、三十歳の明暦二年（一六五六年）、会津にきて学者文人らと親交を深める。

寛文四年（一六六四）、稽古堂の堂主に招かれ、二二年間士庶の教育に力を傾注した。藩主正之も彼の学識を愛し、温かく知遇した。しかし貞享二年（一六八五）、突然、罪によつて真木村（現慶徳町）に流され、元禄四年（一六九一）十一月十七日没する。如黙は、儒学はもとより老荘の学を極め、とくに詩文和歌に長じ、会津の教育と文化の向上に大きな貢献をした。

六年間の流謫生活の中で書き

つづった「謫居隨筆」、「漢和五十韻」、「真木村略記」、「配所の月」、「瓶菊之詩」など如黙の学識と人柄を示すものや愛用の茶器が遺されている。

菅原町の西、県道喜多方西会津線と緑道公園の間に位置し、円丘状の塚の上に「塚原壇」と刻んだ石碑がたつている。

この壇は、地頭富田淡路守祺祐の墓（応永十一年没、一四〇四年）といわれている。また、この塚原壇は、長源壇ともいわれているが、これは塚が「ちょう」とも読めることから、長源と置き換えたものであろう。塚原館跡は、菅原町にあつて土手や堀の一部に当時の遺構をしのばせ、当時は本丸、二の丸、三の丸があり、前述富田祺祐の築いたものといい、天正年間（一五七三～一五九二）のころは、富田将監の居館であつた。

所在地 喜多方 菅原町

